

食料危機 脅威の正体は…?

みなさん、こんにちは！

穀物繊維をテーマに雑穀・大麦・シリアルを提案しています
ライスアイランドメールマガジン♪

さて、新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言が解除されて約1ヶ月。
今では全国で感染者拡大が広がっています。
自分が他人に感染させないように慎重な行動を心掛けたいものです。
さて、このコロナ禍をきっかけに輸出規制が増えかねない状況になっています。

■温暖化だけではない・・・ある生物の大発生による脅威

この新型コロナウイルス感染拡大は、食料の生産・流通を妨げます。

国際食糧農業機関（FAO）は、

「すべての人々の食料安全保障を脅かし、最も貧しい国々に住む特に
困難な状況にある人々を直撃する」と警告しています。

栄養不足で苦しむ人は、前年より倍増する恐れがあると見直され
危機的状況であると言われてます。

地球温暖化による干ばつや集中豪雨などの異常気象も世界で多発し、
昨年から記録的な山火事に見舞われたオーストラリアでは、
今年の牛肉生産が前年より14%も減少するとの見方もあります。

また、アフリカ東部や中東、西南アジアで「サバクトビバッタ」が
大発生して深刻な農業被害をもたらしていることが問題となっています。

FAOによると、東アフリカの国々ですでに2000万人が
食料不足に陥っているとされています。

原因は、いつも降雨量が少ない砂漠地に

異常気象で雨が降っただけのことです。

雨が降れば草が生えます・・・草が生えると昆虫が活気づきます・・・

その中のバッタがたまたま条件がそろって異常繁殖しただけの事なのですが・・・
バッタは、中東からインドにも迫り、パキスタンでは非常事態宣言が出るほど。
中国でも、各地に監視勧告体制の強化を通達して、
危機感を募らせているようです。
日本にもやってこないか心配になりますね・・・。

■過去最高の穀物生産量見込みも油断できず

米国農業省の20・21年度穀物需給見通しでは、
世界の穀物生産量と消費量はともに27億トン台に増え、
生産は過去最高、期末在庫率も32%台に上がる見込みとのこと。

しかし、「複合災害」で生産が減れば、市況は急変しかねない状況です。
温暖化の影響で世界各地で異常気象が多発しており、
日本でも猛烈な台風、大雨による災害は近年立て続けに発生しています。
また、中国などで食料不足となれば、
国際市場に混乱をもたらすのは必至となります。

そして日本の食料自給率は37%。

とても安心できる数字ではないのは見ての通りです。
小麦、大豆、トウモロコシは、自給ができておらず、
ほとんど輸入に頼っています。主な輸入国である
アメリカ、中国、オーストラリア、タイ、カナダでも災害は起きています。
海外依存が高ければ高いほど、世界情勢によって
輸入できなくなると日本も途端に食糧不足になってしまいます。

そんななか高齢化が進む農家に対して、
ドローン、ロボット、AI技術を導入し、労力軽減、
耕作放棄地での収量増、新規農業者の経験不足の補助などを旨とする
「スマート農業」という新たな農業の実現に向けて動きはじめています。

株式会社ライスアイランド

(岐阜本社) 岐阜県岐阜市香取町3丁目38番地

TEL 058-253-0303 FAX 058-252-5115

(東京営業所) 東京都千代田区有楽町2-10-1 交通会館1F

TEL 03-5288-7700 FAX 03-5288-7701

※アンテナショップ【穀物繊維倉庫】も併設！



配信元 株式会社ライスアイランド <http://www.riceisland.co.jp/>